

北海道宗谷地方の気象観測所

木村玲二

2015年8月11日、北海道の宗谷地方を訪問しました。稚内から宗谷岬を通り、枝幸までの道中、いくつかの気象観測所を訪問しました。ちなみに、稚内と宗谷岬の観測所については近藤純正東北大学名誉教授のHPに詳しく解説されていますのでそちらをご覧ください。

まず、稚内地方気象台です。ここは、稚内市の稚内港のすぐ側に位置し、もちろん数百m先の海に面しているのですが、周りにはそれほど高くない建物が囲まれています。観測露場は広く、地表面は自然草地で、回りを囲むフェンスは風を通しやすいものでした。風向風速計のみが庁舎の屋上に設置されています。

次は宗谷岬アメダスです。当日は寒気が入ってきており、気温は18.7℃でした。日本最北端の地ということもあり、有名な観光地になっています。晴れた日には樺太が見えるはずなのですが、あいにくの天気で見ることが出来ませんでした。樺太には写真のような地名が残っており、間宮林蔵の功績からの歴史を考えると感慨深いものがありました。アメダスは、宗谷岬灯台のすぐ側にあり、ほぼ360度解放されています。海に面している以外は牧草地であり、下草の管理さえきちんとしていけばかなり観測環境に恵まれた場所です。岬の突端には旧海軍の望楼もありました。



18.7℃と表示。



宗谷岬アメダス



樺太旧地名



旧海軍望楼

次は浜鬼志別アメダスです。国道沿いの海に面している以外は、やはり牧草地に囲まれています。周辺にはアメダス特有のいくつかの建屋がありますが、ここも周辺や露場下草の管理さえ行えば、貴重なデータを取り続けることができると思います。



浜鬼志別アメダス北東側を望む



浜鬼志別アメダス南東側を望む

次に、北見枝幸特別地域気象観測所です。ここは、2004年10月から「測候所」から無人化された観測所であり、枝幸町の町の中にあります。周辺は住宅地であり、住宅地の中にあるという点では鳥取県の境の観測所と周辺環境は似ていました。周辺宅地の建蔽率は境よりも小さいと思われませんが、今後宅地化が進めば観測値にも当然影響が出るでしょう。北と東、約300mは海です。



北見枝幸特別地域気象観測所



観測所より北側を望む



観測所より西側を望む



観測所より東側を望む

最後に、豊富アメダスです。周りは防雪林、工場の建物がありますが、アメダス周辺約100mは解放されており、比較的観測環境に恵まれた場所です。写真のように、雨量計には風よけが装備されており、高さはざっと4m近くあります。



豊富アメダス

豊富の近くにはサロベツの湿原があります（年平均気温 6.4℃）。第二次大戦後の入植により、牧業のための開発が行われましたが、その後、湿原としての環境保護が重視され、鳥取砂丘と同じように生業か保護かという議論がされてきたようです。湿原は砂丘に隔てられた窪地に出来たらしく、過去に生成された泥炭から土壌改良剤であるピートモスが生産されていたようです。

車で移動中、宗谷地方では農地を全く見ることはありませんでした。牧草地か平原の景観ばかりでしたが、稚内から名寄までの道中、中川という町ではじめてソバやトウモロコシをはじめとする農地や森林を見ることが出来ました。中川の道の駅で調べたところ、中川の辺りは農業の限界地らしく、それより北側では農業には気温が低すぎるようです。今の時期は牧草の刈取りが盛んに行われていました。

さて、道中、何度か国道の防雪シェルターを見ることが出来ました。私も自分の故郷で地吹雪に遭遇し、何度か怖い目に会っていますが、このような避難シェルターがあるということは、宗谷地方の冬の厳しさを物語っているように思います。



防雪シェルター